

# 平成18年度助産所部会報告

委員長 武田智子

委員 的射場久子 菅谷厚子

## 1. 委員会開催状況

開催日	議題	内容	出席委員名
6月6日	総会報告 活動状況 機能評価	助産所部会 嘱託医問題・周産期医療 ネットワーク状況・包括的指示書 17年度分娩・転院・搬送状況 助産所機能評価の必要性	支部長、菅谷、政木、 正林、前平、小柴、 堀部、巻田、鎌田、 武田
8月25日	嘱託医・連携医療機 関に向けての推進	すべての助産所嘱託医は産科医師 連携医療機関の準備支援	菅谷、前平、正林、 小柴、堀部、政木、 武田
19年 2月24日	厚労省への働きかけ	厚労省（医事課・看護課・母子保健課） 各課からの報告 新生児蘇生救急報告 安全対策の検討	支部長、菅谷、巻田、 鎌田、佐久間、野辺、 夏村、長谷川、佐藤、 武田
3月24日	連携医療機関の覚書 年間研修計画	各連携医療機関への働きかけをする 安全管理指針の周知 ・年最低2回は 研修を受け修了書を受ける 総会への出席	鎌田、的射場、野辺、 夏村、正林、瀧、小林、 竹内、武田

## 2. 18年度委員会目標に対する結果・評価

目標	内容	結果・評価
助産業務ガイドライン の周知徹底  分娩転院搬送件数報告	事故発生した場合の緊 急時対応・家族への対 応など検討  分娩・転院の原因・搬 送数をそのつど提出す る。	①報告の仕方、確認しあう ②助産所保険加入の把握をする ③事故報告書の書き方 ④事故の振り返り、再発防止 ①月末に報告書記載し報告を受けるようにし年 度末にまとめる。 ②転院・搬送原因の把握
助産所機能評価の推進  薬事法改正による包括 的指示書	各助産所機能評価の検 討 本部および支部との内 容比較  各助産所が嘱託医ある いは医師よりの指示を 受ける。	①機能評価の提出 有床・出張との違い ②機能評価の検討の継続および話し合いを行う ①指示書を明記された助産所2箇所 ②20年4月までにすべての助産所が指示書によ り薬局から薬を購入する
嘱託医・連携医療機関 との覚書等の約束	現在の嘱託医とは現行 の状況で可能、連携医 療機関とは覚書等の文 書を交わす	①千葉県助産師会の覚書・契約書等の雛形を作 成しそれにあわせ文書を改良することができる ②20年4月までに各助産所が連携医療機関を決 定する

目標	内容	結果・評価
助産倫理に基づく行動が取れる	助産所の倫理規定を掲げることによって助産師の質を保つ	①安全管理指針を理解・解釈し各助産所の倫理および指針を決定する

### 3. 次年度（19年度）課題

- ①今年1年間で嘱託医・連携医療機関を決定する。
- ②包括的指示書を交わす
- ③助産業務ガイドラインを必ず守る。
- ④助産所機能評価・安全管理指針の解釈および理解
- ⑤転送・搬送数の報告の迅速化
- ⑥助産所部会への参加をして常に情報交換をする。

### 助産所の推移

昭和47年	112ヶ所
昭和57年	69ヶ所
平成2年	32ヶ所

	有床助産所	分娩件数	出張助産所	分娩件数	総分娩数
平成13年	6ヶ所	244件	2ヶ所	11件	255件
平成14年	8ヶ所	293件	2ヶ所	15件	308件
平成15年	9ヶ所	300件	7ヶ所	14件	314件
平成16年	9ヶ所	345件	8ヶ所	14件	359件
平成17年	9ヶ所	309件	8ヶ所	40件	349件
平成18年	11ヶ所	337件	9ヶ所	53件	390件